

ごみに関する児童アンケート調査結果報告書

1. 調査の概要

1-1. 調査の目的

本調査は、花巻市の児童を対象としてアンケート調査を行うことにより、ごみの減量やリサイクルに対する意識と行動の状況、ごみ行政や廃棄物処理に関する意見や要望等について把握し、ごみ減量化を推進する上での基礎データを得ることを目的とします。

1-2. 調査の設計

アンケート	調査対象	調査対象者	調査方法	調査期間
児童	全員	市内小学4年生	オンライン	令和6年11月1日 ～11月29日

1-3. 調査項目

アンケート	調査項目
児童	①調査対象世帯の基本属性 ・性別、年齢、世帯人数、住宅の形態 ②ごみの排出状況について ・燃やせるごみ・燃やせないごみの排出頻度・排出量 ③ごみの減量やリサイクル等への取り組みについて ・ごみの減量やリサイクルへの関心、取り組み状況 ④学校の授業について ・「ごみはどこへ」を学んだ感想 など

1-4. 回収結果

アンケート	調査対象数 [A]	回収数 [B]	回収率 [B/A]
児童	687	490	71.3%

1-5. 報告書の見方

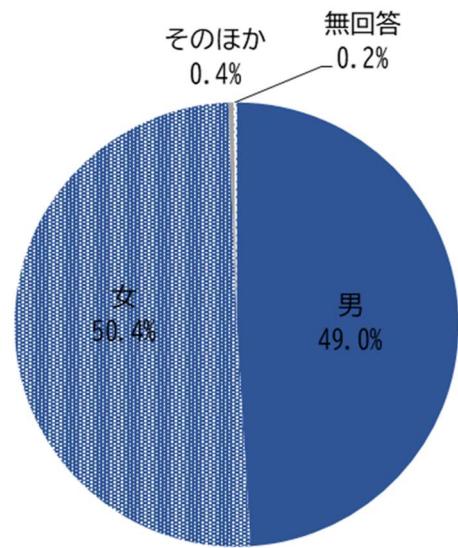
- (1) 回答は、各質問の回答者数を基数とした百分率で示すことを基本としました。
- (2) 百分率は、小数第二位を四捨五入したため、比率の合計が 100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の質問については、比率の合計は 100.0%にはなりません。また、単数回答の質問についても、四捨五入の関係上、比率の合計が 100.0%にならない場合があります。
- (4) 選択式の質問については、該当者数を母数として比率を算出しました。
- (5) その他については、複数のご意見や「特になし」とご記入いただいた回答者もいることから「その他」を選択した回答者数と合わない場合があります。なお、件数が多いものは要約しています。

2. ごみに関する児童アンケート調査結果

Q 1. あなたのせい別を教えてください。〔1つ選ぶ〕

回答を得た児童の性別は、男が 49.0%、女が 50.4%です。

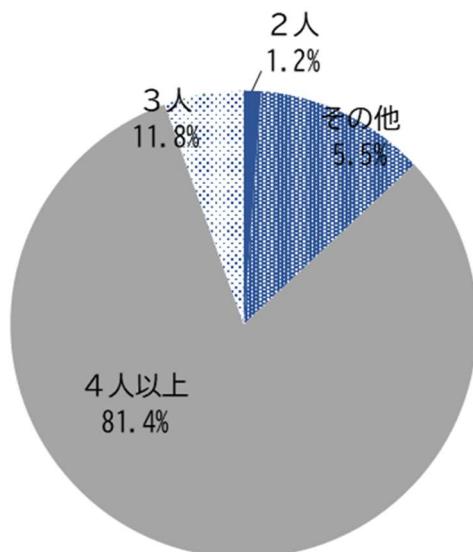
項目	回答数	%
1 男	240	49.0%
2 女	247	50.4%
3 その他	2	0.4%
4 無回答	1	0.2%
小 計	490	100.0%



Q 2. あなたの家は何人で住んでいますか。〔1つ選ぶ〕

回答を得た児童の世帯の人数は、2人が 1.2%、3人が 11.8%、4人以上が 81.4%です。

項目	回答数	%
1 2人	6	1.2%
2 3人	58	11.8%
3 4人以上	399	81.4%
4 その他	27	5.5%
5 無回答	0	0.0%
小 計	490	100.0%

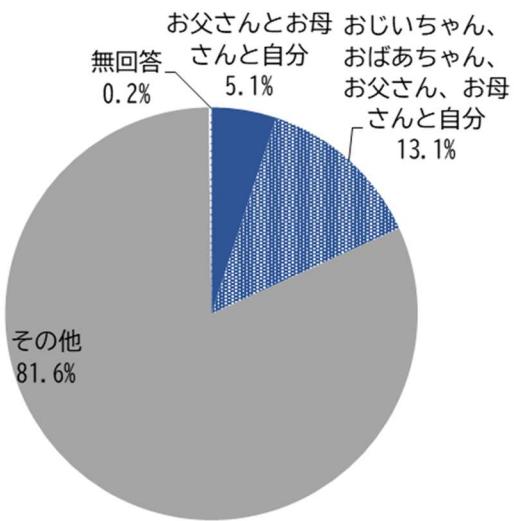


- 5人
- 8人
- 6人
- 9人
- 7人

Q 3. いっしょに住んでいる家族を教えてください。

回答を得た児童の世帯構成は、2世代世帯が5.1%、3世代世帯が13.1%です。

項目	回答数	%
1 お父さんとお母さんと自分	25	5.1%
2 おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんと自分	64	13.1%
3 その他	400	81.6%
4 無回答	1	0.2%
小 計	490	100.0%

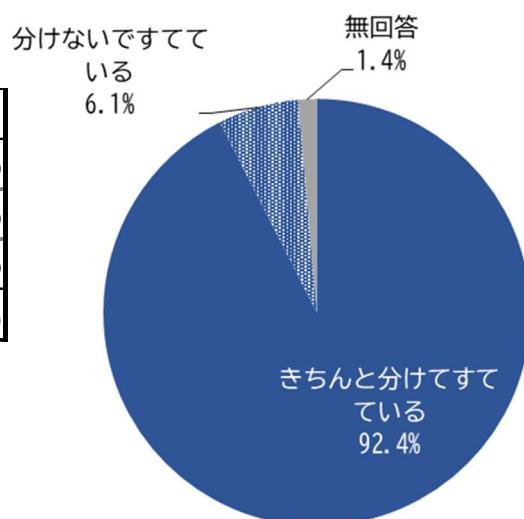


- 兄弟

Q 4. あなたは、ごみを「もやせるごみ」「もやせないごみ」「しげんごみ」に分けて
すてていますか。〔1つ選ぶ〕

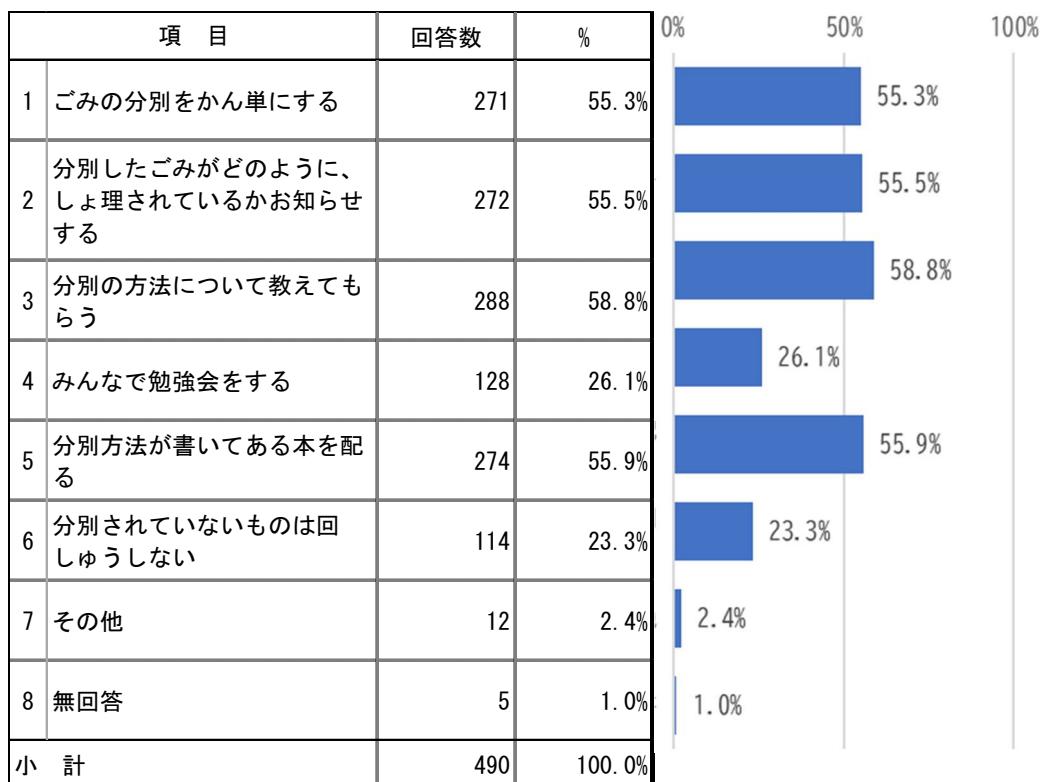
回答を得た児童の分別意識を見ると、「きちんと分けてすてている」92.4%、「分
けないですてている」が6.1%です。

項目	回答数	%
1 きちんと分けてすてている	453	92.4%
2 分けないですてている	30	6.1%
3 無回答	7	1.4%
小 計	490	100.0%



Q 5. みなさんに、分別のルールを守ってごみをすべてもらうためには、どのようにしたら良いと思いますか。[3つ選ぶ]

分別のルールを守りごみを排出してもらうためにすべき行動について、「分別の方法について教えてもらう」が 58.8%で最も比率が高く、次いで「分別方法が書いてある本を配る」が 55.9%、「分別したごみがどのようにしょ理されているかお知らせする」が 55.5%、「ごみの分別をかん單にする」が 55.3%、「みんなで勉強会をする」が 26.1%、「分別されていないものは回収しない」が 23.3%となっていました。



- ・分別をしたらどのようなことがありますのかというようなパンフレットや伝えたりしたらいいと思います
- ・燃やせるゴミと燃やせないゴミを分けてする
- ・よびかけをしたらいいとおもう
- ・自分や、友達、家族と呼びかけあうようにしたり話し合うようにするとよい
- ・分別をしない人がいなくなること
- ・分別を一定回数しなかった人は迷惑が掛かった償いとして、10 円か 100 円を罰金で払う
- ・分別がもっと楽しくなればいいと思う
- ・チラシや、新聞などで伝える
- ・分別方法が書かれたポスターを、配る
- ・きちんと分別しないとどうなるのかを知らせる
- ・分別しなければならない理由を知らせる

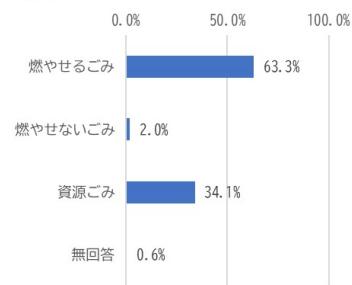
Q 6. つぎのごみは、何ごみに分別しますか。

(1)新聞・チラシ・まんが本

「燃やせるごみ」が 63.3%で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 34.1%、「燃やせないごみ」が 2.0%となっています。

「燃やせるごみ」が最も多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

新聞・チラシ・まんが本



(2)おかしの箱、ティッシュの箱

「燃やせるごみ」が 67.1%で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 23.7%、「燃やせないごみ」が 8.4%となっています。

「燃やせるごみ」が最も多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

おかしの箱、ティッシュの箱

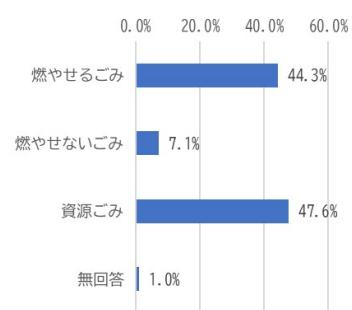


(3)ダンボール

「資源ごみ」が 47.6%で最も比率が高く、次いで「燃やせるごみ」が 44.3%、「燃やせないごみ」が 7.1%となっています。

「資源ごみ」が多いものの、「燃やせるごみ」として認識している児童も多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

ダンボール



(4)牛にゅうパック

「燃やせるごみ」が 44.9%で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 44.1%、「燃やせないごみ」が 10.0%となっています。

「燃やせるごみ」が最も多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

牛乳パック

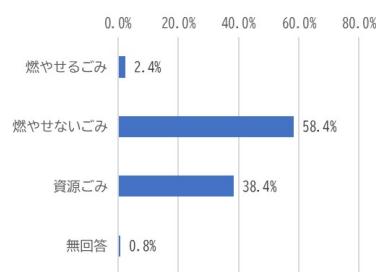


(5) ジュースの空きかん

「燃やせないごみ」が 58.4% で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 38.4%、「燃やせるごみ」が 2.4% となっています。

「燃やせないごみ」が最も多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

ジュースの空き缶

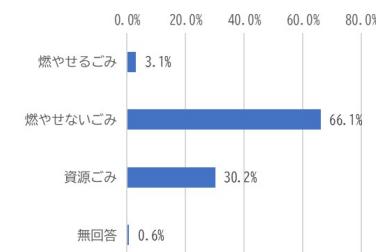


(6) かんづめやおかしのかん

「燃やせないごみ」が 66.1% で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 30.2%、「燃やせるごみ」が 3.1% となっています。

「燃やせないごみ」や「資源ごみ」として分別することを十分に理解できています。

かんづめやおかしのかん

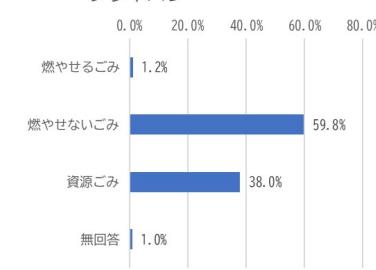


(7) フライパン

「燃やせないごみ」が 59.8% で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 38.0%、「燃やせるごみ」が 1.2% となっています。

「燃やせないごみ」や「資源ごみ」として分別することを十分に理解できています。

フライパン

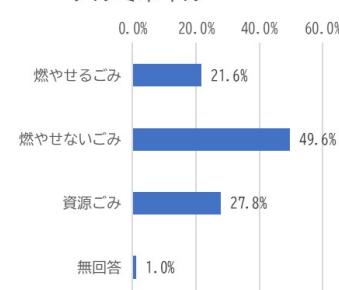


(8) アルミホイル

「燃やせないごみ」が 49.6% で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 27.8%、「燃やせるごみ」が 21.6% となっています。

「燃やせないごみ」が最も多いものの、「燃やせるごみ」として認識している児童もいることから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

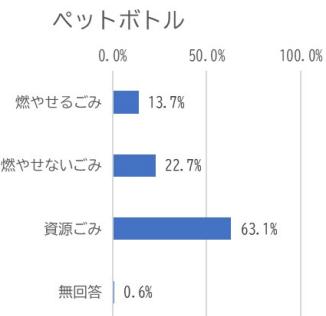
アルミホイル



(9) ペットボトル

「資源ごみ」が 63.1%で最も比率が高く、次いで「燃やせないごみ」が 22.7%、「燃やせるごみ」が 13.7%となっています。

「資源ごみ」が最も多いものの、「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」として認識している児童もいることから、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

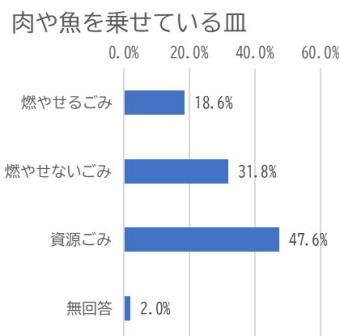


(10) 肉や魚を乗せている皿

(プラマークのあるもの)

「資源ごみ」が 47.6%で最も比率が高く、次いで「燃やせないごみ」が 31.8%、「燃やせるごみ」が 18.6%となっています。

「資源ごみ」が最も多いものの、「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」として認識している児童も多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。



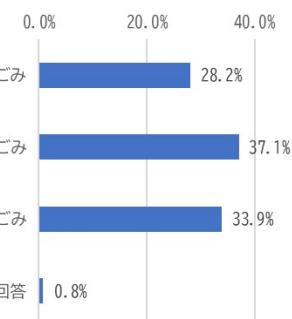
(11) べん当、とうふ、たまご、プリンのよう器

(プラマークのあるもの)

「燃やせないごみ」が 37.1%で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 33.9%、「燃やせるごみ」が 28.2%となっています。

「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」が多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

弁当、豆腐、卵、プリンの容器



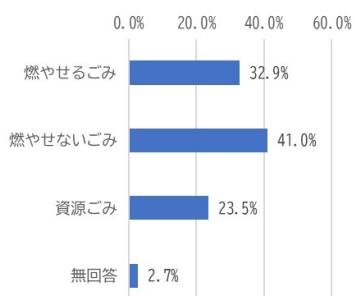
(12) マヨネーズ、歯みがきこのよう器

(プラマークのあるもの)

「燃やせないごみ」が 41.0%で最も比率が高く、次いで「燃やせるごみ」が 32.9%、「資源ごみ」が 23.5%となっています。

「燃やせないごみ」が最も多いことから、適正な分別品目について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

マヨネーズ、歯磨き粉の容器

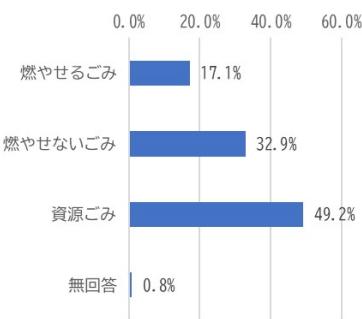


(13) ペットボトルのキャップとラベル (プラマークのあるもの)

「資源ごみ」が 49.2% で最も比率が高く、次いで「燃やせないごみ」が 32.9%、「燃やせるごみ」が 17.1% となっています。

「資源ごみ」が最も多いものの、「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」として認識している児童も多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業での学習内容に工夫が必要です。

ペットボトルのキャップとラベル

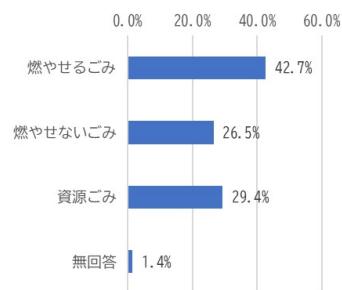


(14) レジぶくろ、おかしやパンの袋 (プラマークのあるもの)

「燃やせるごみ」が 42.7% で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 29.4%、「燃やせないごみ」が 26.5% となっています。

「燃やせるごみ」が多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業で具体的なもののを見せながら学習を進めるなど授業方法に工夫が必要です。

レジ袋、おかしやパンの袋

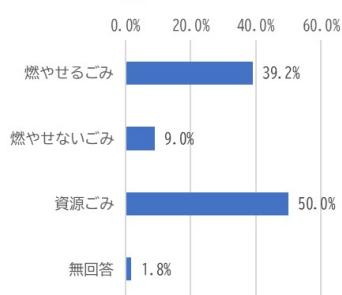


(15) 服

「資源ごみ」が 50.0% で最も比率が高く、次いで「燃やせるごみ」が 39.2%、「燃やせないごみ」が 9.0% となっています。

「資源ごみ」が最も多いものの、「燃やせるごみ」として認識している児童も多いことから、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業の学習内容に工夫が必要です。

服

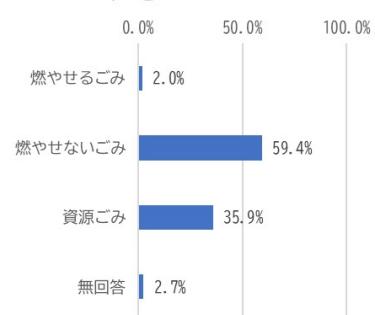


(16) かん電池

「燃やせないごみ」が 59.4% で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 35.9%、「燃やせるごみ」が 2.0% となっています。

回答者の多くが「燃やせないごみ」、「資源ごみ」としており、適正な分別区分について十分に理解できています。

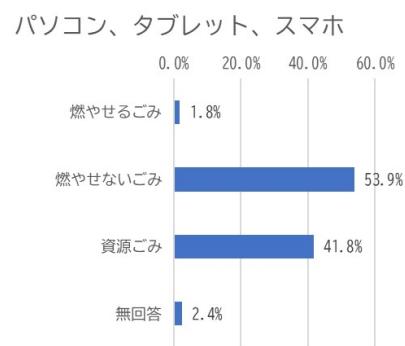
乾電池



(17) パソコン、タブレット、スマホ

「燃やせないごみ」が 53.9% で最も比率が高く、次いで「資源ごみ」が 41.8%、「燃やせるごみ」が 1.8% となっています。

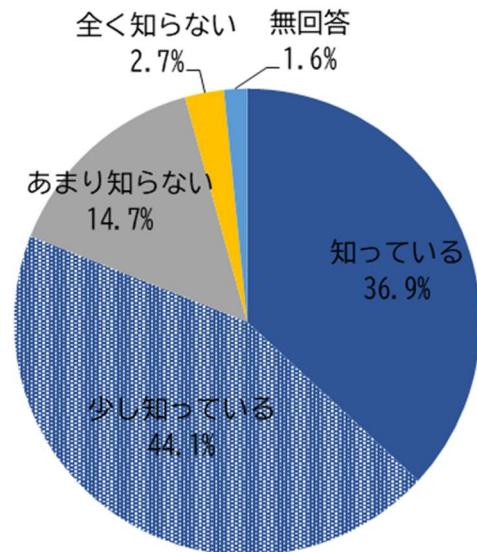
「燃やせないごみ」が最も多く、適正な分別区分について理解できるよう、出前授業での学習内容に工夫が必要です。



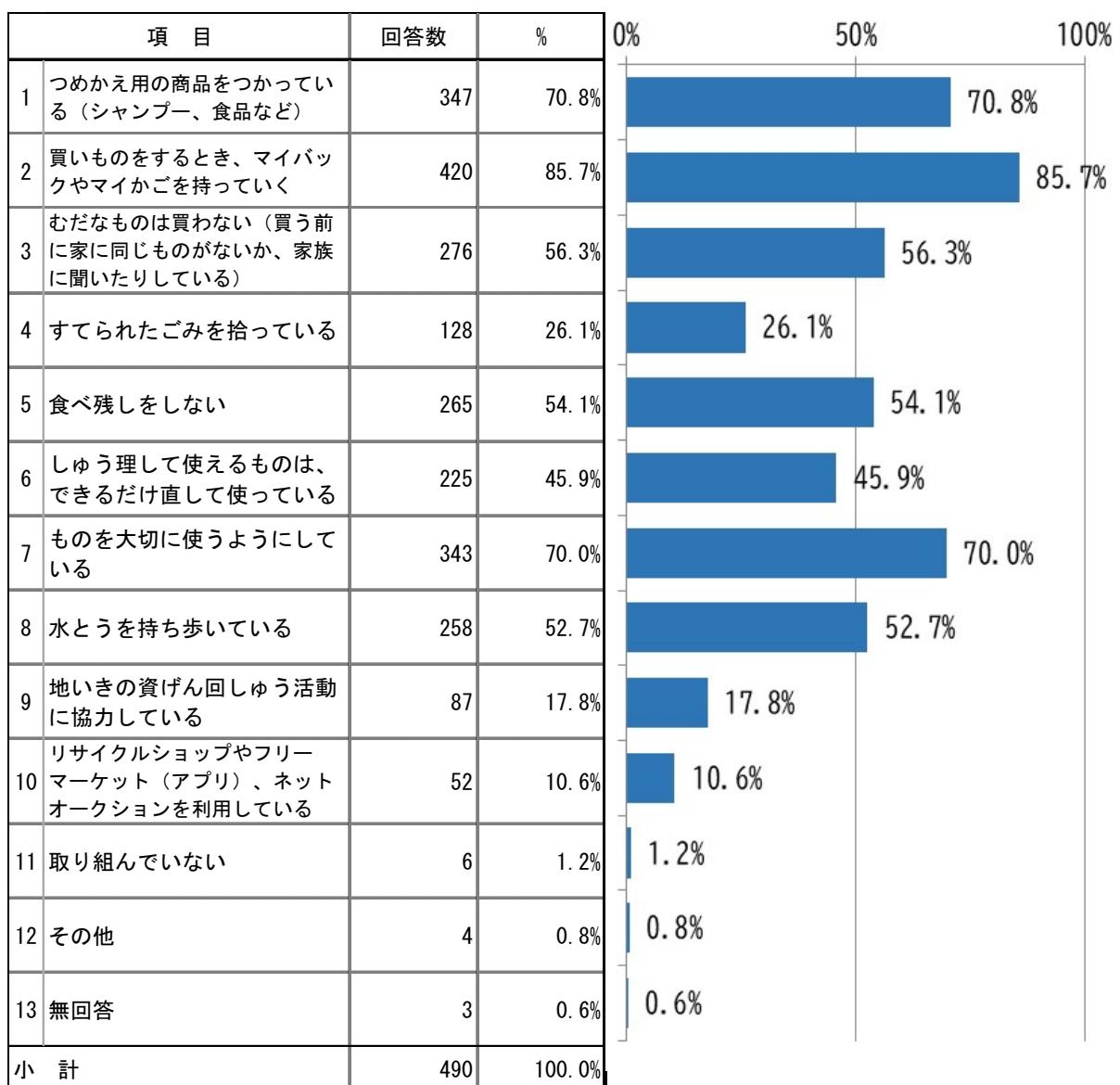
Q 7. ごみのげん量、リサイクル、食品ロスを知っていますか。〔1つ選ぶ〕

「知っている」が 36.90%、「少し知っている」が 44.1% であり、合わせて 81.0% の回答者が、ごみの減量やリサイクルなどを知っています。

項目	回答数	%
1 知っている	181	36.9%
2 少し知っている	216	44.1%
3 あまり知らない	72	14.7%
4 全く知らない	13	2.7%
5 無回答	8	1.6%
小計	490	100.0%



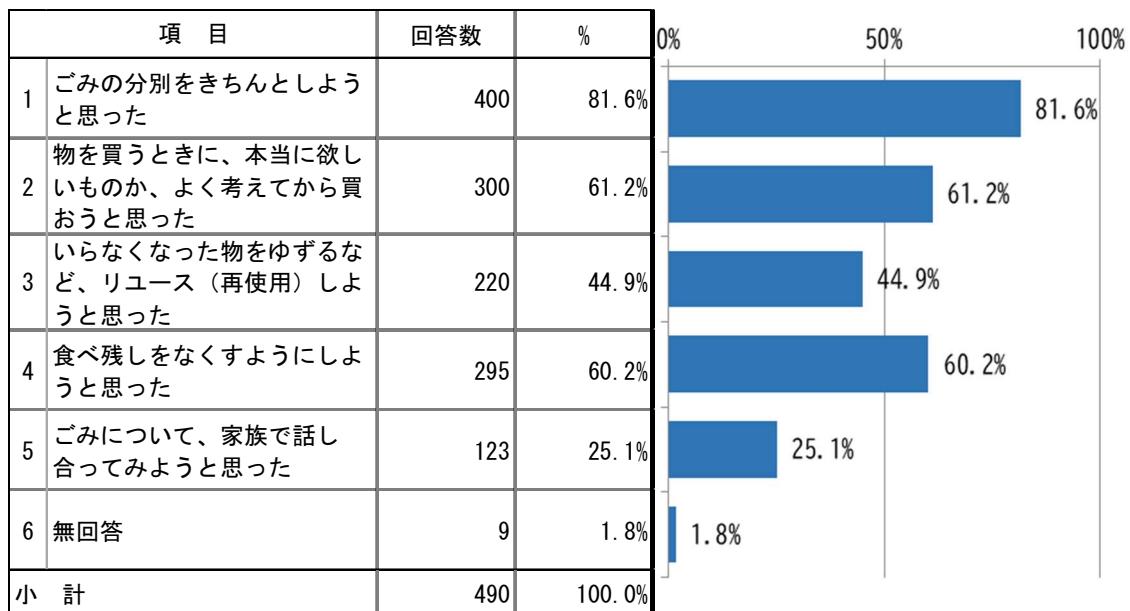
Q 8. ごみに関することで、取り組んでいることを教えてください。[いくつでも]
 「買い物をするとき、マイバッグやマイかごを持っていく」が 85.7%と最も比率
 が高く、次いで「つめかえ用の商品をつかっている」が 70.8%、「ものを大切に使う
 ようにしている」が 70.0%、「むだなものは買わない」が 56.3%となっています。



- ・いらなくなつた物をまだ使う。
- ・ペットボトルや、分別しなきやいけない物は、自分から進んで取り組んでいる。
家族にもなるべく言うようにしています。
- ・おもちゃをあまり買わない。
- ・できるだけ資源ごみを買う。
- ・きちんと分別する。
- ・なるべく使いすてのものを使わない。

Q9. 学校のじゅ業で「ごみはどこへ」を学んだあと、気にしていることはありますか。[いくつでも]

「ごみの分別をきちんとしようと思った」が 81.60%と最も比率が高く、「物を買うときに、本当に欲しいものか、よく考えてから買おうと思った」が 61.20%、「食べ残しをなくすようにしようと思った」が 60.20%となっています。



Q10. じゅ業で、ごみについて学んだときの感想を書いてください。

1. ごみの分別の重要性 (180 件)

- 分別しないと環境に悪影響を及ぼすことがわかった。
- クリーンセンターの見学を通じて、分別が大変であることを理解した。
- 燃えるごみ、燃えないごみ、資源ごみなどを分ける意識が芽生えた。

2. リサイクルやリユースの価値 (130 件)

- ごみがリサイクルされ、新しい製品に生まれ変わることを知った。
- 使えるものを繰り返し使う「リユース」を心がけたいという意識が高まった。

3. 食品ロスの削減 (35 件)

- 食べ残しを減らし、食品ロスに気をつけることの大切さを学んだ。
- 家庭での食事の量を見直すなどの取り組みが始まった。

4. 環境保護と持続可能な取り組み (90 件)

- ごみを減らすことが地域や地球環境に良い影響を与えることを理解した。
- ごみ拾いや分別を通じて、より良い環境づくりに貢献したいという意欲。

5. クリーンセンターでの学び (40 件)

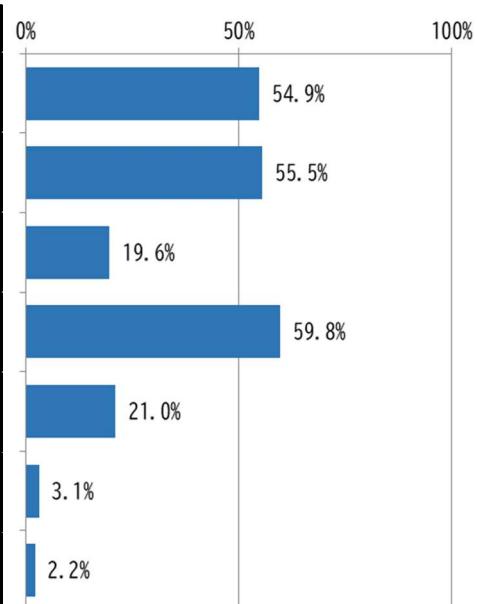
- ごみ処理の仕組みや工夫を知り、普段のごみ捨ての習慣を見直すきっかけになった。
- 作業の大変さに気づき、処理場の職員への感謝の気持ちを抱くようになった。

Q11. じゅ業で、ごみについて学んだあと、生活に変化はありましたか。

[いくつでも]

「食べ残しをなくすようになった」が 59.8%と最も比率が高く、次いで「持っている物を直して、長く使うようになった」が 55.5%、「ごみの分別や、ごみ出しの手伝いをするようになった」が 54.9%となっています。

項目	回答数	%
1 ごみの分別や、ごみ出しの手伝いをするようになった	269	54.9%
2 持っている物を直して、長く使うようになった	272	55.5%
3 リサイクルショップを利用するようになった	96	19.6%
4 食べ残しをなくすようになった	293	59.8%
5 家族でごみについて話すようになった	103	21.0%
6 その他	15	3.1%
7 無回答	11	2.2%
小計	490	100.0%



物を大事に使うようになった。(3件)

ものをたいせつにつかうようにしている。(2件)

分別をするようになった・できるようになった。(2件)

エコバックを使うようになった。(1件)

詰め替えのもの使用するようになった。(1件)

Q12. ごみを減らすために、良いアイディアはありますか。

1. ポイ捨ての防止とごみ拾い (30 件)

- 地域で定期的なクリーン活動を実施。
- 道に落ちているごみを見つけたら積極的に拾う。
- ポスターやインターネットを使って「ポイ捨て禁止」を呼びかける。

2. リユース・リサイクル (126 件)

- 壊れたものを修理して再利用する。
- リサイクルショップやリユースショップを利用する。
- 不要なものを他の人に譲ったり、フリーマーケットで再利用する。
- 子どもが分別を学びやすいよう、イラスト入りのごみ箱を設置する。

3. 無駄遣いを減らす (85 件)

- 本当に必要なものだけを購入する習慣をつける。
- 繰り返し使えるものを選ぶ（例：詰め替え用商品やエコバッグ）。
- 買う前に家族や友人と相談する。

4. 食べ残しを減らす (42 件)

- 食べられる量を適切に盛り付ける。
- 好き嫌いを減らし、無駄なく食事をする。
- 家庭や学校で食べ残しぼりを目標とする運動を始める。

5. 地域や学校での啓発活動 (74 件)

- ポスターやチラシを作り、地域に配布。
- ごみの分別やリサイクルについての勉強会を開催。
- 学校や地域イベントでリサイクルや 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の重要性を伝える。

6. 新しいアイディアの実施 (19 件)

- ごみ拾い活動への報酬（例：ごみ 1 袋ごとに地域通貨やポイント）。
- ゴミ分別を助けるアプリやマークを普及。
- リサイクルで新しい製品を作るプロジェクトを提案。

7. 環境に優しいライフスタイル (73 件)

- マイバッグやマイボトルを利用する。
- 必要以上の包装を避ける。
- 資源を大切にし、自然に優しい選択をする。

児童アンケートまとめ

1) 児童のごみ減量への意識と行動

「ごみはどこへ」の授業を受けたことで、ごみの減量やリサイクル、食品ロスについて、回答者の約 81%が認識していることがわかりました。一方で、あまり知らない、全く知らないと回答した児童が約 17%となり、何度も学習を繰り返すことが望まれます。

また、現状において、回答者の多くがごみの減量やリサイクルへの取り組みを実践しており、「買い物をするとき、マイバックやマイかごを持っていく」が最も多くなっていますが、この他にも普段の行動で実践できる取組を紹介していくことも必要です。

2) ごみ出しの現状

ごみ分別については、回答者の約 92%はごみを分別する必要があることを認識しています。

しかし、ごみ出しの現状をみると出前授業で学習した内容を十分に理解できていないことから、適正な分別区分に対する理解を深められるよう、学習の進め方、授業内容の工夫が必要です。

(1) 古紙

いずれにおいても燃やせるごみとして認識している割合が高くなっています。

特に、新聞・チラシ・まんが本、菓子やティッシュの箱では過半数が燃やせるごみとして認識していることがわかりました。このため、出前授業を通じて、集められた資源のゆくえについて学習するなど、適正な分別区分に対する理解を深められるよう、授業内容の工夫が必要です。

(2) 缶

缶詰の缶、菓子缶は、燃やせないごみとして認識している割合が高いため、出前授業を通じて、集められた資源のゆくえについて学習するなど、適正な分別区分に対する理解を深められるよう、授業内容の工夫が必要です。

(3) ペットボトル

ペットボトルは、資源ごみとして認識されている比率が高く、分別区分を概ね理解しています。今後も継続した資源回収の推進に向けた意識づけが必要です。

(4) その他プラスチック

プラマークのついているトレイ、容器や袋について、多くは燃やせないごみとして認識していることから、出前授業を通じて、実際の品目を見せながら分別の方法を確認する、また、集められた資源のゆくえについて学習するなど、適正な分別区分に対する理解を深められるよう、授業内容の工夫が必要です。

(5) 乾電池

回答者の多くが燃やせないごみとして分別することを理解しており、また、資源ごみと認識している比率も多いことから、これらの品目のごみ出しの広報・PR方法、回収体制等を他の品目に応用することが望されます。

(6) その他

パソコン、タブレット、スマホについては、燃やせないごみとして認識している比率が最も高いことから、授業内容を通じて、資源のゆくえやリサイクルの過程を学習するなど、適正な分別区分に対する理解を深められるよう、授業内容の工夫が必要です。

3) 環境教育

学校の授業「ごみはどこへ」を学んだことで、「ごみの分別をきちんとしようと思った」と回答した児童が約 82%となり、生活の変化においても「ごみの分別やごみ出しの手伝いをするようになった」と回答した児童が約 51%となっています。

また、生活の変化においては「食べ残しをなくすようになった」と回答した児童が約 60%となり、ごみ問題と関連し、食育としての効果も伺えます。